

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 山崎 眞紀子

研究課題		1920年代～30年代生まれの女性作家研究と村上春樹の最新作研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>1. 1920年代～30年代生まれの女性作家研究 標記の年代生まれの女性作家たちは日本が敗戦したアジア太平洋戦争時に思春期を迎え、戦後まもなく就職や結婚、出産などライフイベントを迎えた世代である。戦後は、それまでの男女別教育から男女平等教育へと転換され、大学も女子学生に門戸を開いた。社会制度や世の価値観が大きく変貌した女性が、モデルなき人生を切り開く上で「書く」ことで自己実現していった女性作家たちの表現力と作り上げられた新たな価値体系の様相を探究する。本年は須賀敦子に焦点を当てた。</p> <p>2. 村上春樹の最新作研究 長篇最新作『騎士団長殺し』では、妻に去られた男性が自己を見つめなおし、他者を受け入れるまでのプロセスが描かれていた。この妻(=女性たち)の消失構造を研究した。</p>
	研究成果	<p>1. 1920年代～30年代生まれの女性作家研究 日本近代文学作品をイタリアに翻訳した須賀敦子の表現力の研究のために、東京・九段下にあるイタリア文化会館にある須賀敦子文庫に週1度通い、日本近代文学作品をイタリア語に翻訳したアンソロジー『NARRATORI GIAPPONESI MODERNI』を読解すべく、同館でイタリア語を学びつつ、須賀が翻訳作品として選択した作品群の傾向を探っている。また、須賀の留学時代の背景を探るためにフランスに調査に赴き、資料を得た。</p> <p>2. 村上春樹の最新作研究 台湾の淡江大学で開催された国際シンポジウム村上春樹研究で、研究発表。ならびに京都大学を本部とする村上春樹研究セミナー創立メンバーとして、9月に村上春樹作品における消失についての講演会を行った。また、本研究会のWEB機関誌に村上春樹の創作過程調査ローマ編を発表。</p>
研究業績	論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	1. 山崎眞紀子・「村上春樹とイタリアー『遠い太鼓』ローマ編、『ノルウェイの森』誕生の地探訪記」・オンライン雑誌『MURAKAMI REVIEW』査読有・(ISSN:2434-5148)第0号(創刊準備号)2018年10月31日・P107- 117
	学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	1. 山崎眞紀子・「村上春樹作品における共鳴ーハツミ、ユズを中心に」・2018年第7回村上春樹国際シンポジウム・2018年5月27日(日)・台湾:淡江大学守護国際会議センター 2. 山崎眞紀子・「田村俊子『女声』ー1920年代と1940年代の日中女性関係の温度差を軸にして」・昭和文学会2018年度春季大会(昭和文学会・台湾日本文学会姉妹締結記念国際シンポジウム)・東京女子大学
	その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会, 研究会, 研修会, セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	1. 山崎眞紀子・「村上春樹作品における消滅について」村上春樹研究フォーラム・第1講演・2018年9月29日、京都大学吉田キャンパス 2. 山崎眞紀子・「書評・古谷田奈月著『無限の玄／風下の朱』」・毎週金曜日発売『週刊読書人』2018年9月21日号